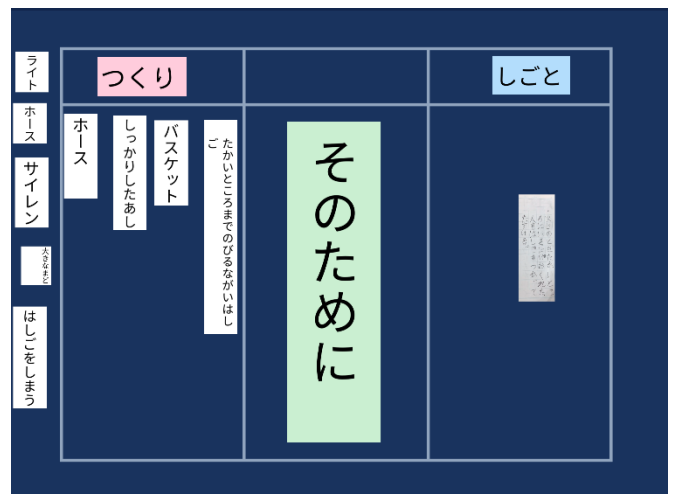
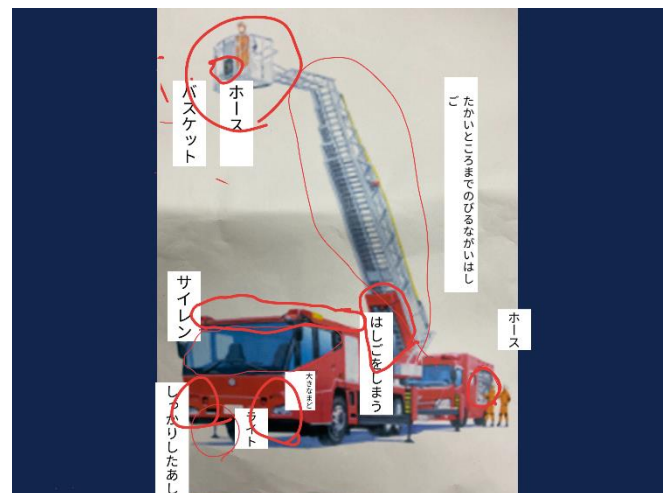


「読むこと」領域における授業実践例

- ① 学年・単元名 第1学年「せつめいする文しょうをよもう」
- ② 単元のねらい
「事柄の順序を考えながら読み、大切な言葉を選び出すことができる。」
- ③ 指導の工夫
「じどう車くらべ」の学習を終え、はしご車の「しごと」と「つくり」を考える際、はしご車の映像を紹介し、「仕事」の内容を共通で確認し、そのための「つくり」を挿絵を基に考えるようにした。その際、ロイロノートを活用して作りを確かめたり、確かめたつくりを活用して文章を作るとしりすることで、この後の単元「せつめいする文しょうをかこう」につなげた。
- ④ 活用したツール タブレット端末 (iPad) とクラウド型授業支援アプリ ロイロノート

・挿絵をロイロノートで児童へ送信し、はしご車の「仕事」をするために繋がる「つくり」を赤で囲む活動を行った。そして、囲った絵を提出し、全体交流で確認を行った。そうすることで、児童は、間違えてもすぐに消すことができたり、絵を拡大して詳しく調べたりして「つくり」を理解することができた。児童は、発表をする際、画面に移されたはしご車に直接赤で囲みながら、「高い所の人を助けられないから、はしごがあります。」と話し、相手に伝わりやすい発表を行うことができていた。



・児童が出した「つくり」を基に、大切な言葉だけを選び出すことができるように、ロイロノートにあるシンキングツールの中の表を活用して、はしご車の「仕事」と「つくり」が分かる文章作りを行った。「じどう車くらべ」と同様に「そのために」の前に「仕事」後ろに「つくり」が入るように表を用意して、児童に「仕事」にぴったりの「つくり」がどれかを選び出す活動を行った。児童は、○をつけた「サイレン」や「ライト」などは、仕事とは合わないから選ばず、「高い所までのびるはしご」や「はしごの先にあるバスケット」などを選び、はしご車の「仕事」と「つくり」がつながる文章を考えることができていた。選んだ言葉については、仲間同士で交流する活動を位置付け、仕事とあっているのかを確かめ合うことができたようにした。

⑤ 成果と課題（実践するときの留意点など）

○挿絵をロイロノートで送ることで、拡大して詳しく見ることができ、ICT 機器を活用することは有効であった。

△ICT 機器を活用する際の板書との併用や、児童がノートに書くこととタブレット端末で行うことの区別を教師が確かにもち、指導にあたる必要がある。